

ミカンキイロアザミウマに対する有効な薬剤を選定

農業研究部

1. 研究の背景

ミカンキイロアザミウマは野菜類、花き類、果樹類の重要害虫として認識されており、直接的な食害のほかTSWVを媒介することで大きな被害となる。ミカンキイロアザミウマに対して、これまでに様々な薬剤に対して防除効果が低下していることが判明している。そこで、野菜類および花き類で登録のある薬剤で検定し、効果の高い薬剤を選定した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- 1) すべての地域で有効な薬剤として、ハチハチ乳剤、プレオフロアブル、プリンスフロアブルを選定した。
- 2) 地域によって有効な薬剤にふれはあるが、有機りん系薬剤、IGR系薬剤、アファーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSCが有効であった。
- 3) 豊後大野市犬飼町および由布市挾間町では、スピノエース顆粒水和剤に対する感受性低下が初確認されたので、薬剤散布にあたっては有効な薬剤を含めてローテーション使用する。

表1 大分県のピーマン産地で採集したミカンキイロアザミウマに対する殺虫効果

系統	供試薬剤	希釈倍率 (倍)	地域(ピーマンから採集)				
			豊後大野三重	豊後大野犬飼	竹田	玖珠	由布
			補正死虫率(%)				
ネオニコ	モスピラン水溶剤	2,000	6.3	0	7.2	20.3	11.1
チノイド系	ベストガード水溶剤	2,000	10.9	9.1	21.5	8.9	16.4
	スタークル顆粒水溶剤	2,000	11.1	0	23.3	13.5	22.2
有機りん系	オルトラン水和剤	1,000	77.8	4.5	0	84.1	6.7
	マラソン乳剤	2,000	100	81.8	53.5	18.0	97.8
	スミチオン乳剤	2,000	91.1	56.8	27.9	97.7	42.2
合成ピレ	アーデント水和剤	1,000	4.4	29.5	0	0	0
スロイド系	トレボン乳剤	1,000	66.7	26.4	0	2.1	13.3
	アグロスリン乳剤	2,000	6.7	6.8	0	4.1	24.4
マクロ	アグリメック乳剤	500	20.0	20.5	27.9	38.5	22.2
ライド系	アファーム乳剤	2,000	42.2	100	7.0	24.9	59.5
	アニキ乳剤	2,000	18.2	11.4	0	10.9	33.3
(スピノシン)	スピノエース顆粒水和剤	5,000	100	4.5	100	100	13.3
	ディアナSC	2,500	100	4.5	100	100	4.4
IGR系	カウンター乳剤	3,000	78.3	32.6	100	86.9	17.4
	カスケード乳剤	4,000	8.9	15.9	16.3	8.9	27.2
	マッチ乳剤	2,000	84.4	45.6	72.1	69.5	11.1
その他	コテツフロアブル	2,000	8.9	88.1	13.5	29.4	11.1
	ハチハチ乳剤	1,000	95.5	97.9	100	100	97.8
	プレオフロアブル	1,000	95.6	91.1	93.0	90.9	88.9
	プリンスフロアブル	2,000	100	100	100	97.7	100

3. 期待される効果

県内の各産地において、ミカンキイロアザミウマに対して有効な薬剤を使用することで、効果的に防除することが出来る。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫チーム

TEL:0974-28-2078

住所:豊後大野市三重町赤嶺2328-8